

事務事業名	ジュニアリーダー養成事業		所属部局	教育委員会	単位番号	12398				
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属課室	生涯学習課	課長名	小野 義邦				
			所属担当	青少年担当	担当者名	長谷部寿仁				
基本政策	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策	24	青少年の健全育成	事業区分	01	一般	10	04	03	030	19
施策	38	健全育成支援体制の強化充実		<input type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業	<input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業					
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 H15 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	法令根拠		<input type="checkbox"/> 県の制度による義務的事業	<input type="checkbox"/> 補助金交付事業					
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 学区を越えた仲間と団体活動の楽しさや集団活動を通して、自立・共同・奉仕を体験的に学習し、普通学校や家庭では期待しにくい経験を体験し、地域の子どものリーダーとして活躍できる子どもを育てる。		事業費の主な内訳 (26年度 決算見込)							
			項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
			講師謝金		156					
		消耗品費		136						
		食糧費		120						
		その他保険料		39						
		会場借上料		11		計		462		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
26年度活動内容	「県立八ヶ岳少年自然の家」において、市内小学6年生及び中学1~2年生を対象に自然体験学習を行う。別に中学生を対象に月に1回の	⇒	ア 開催回数 単位 回
27年度活動予定	「県立八ヶ岳少年自然の家」において、市内小学6年生及び中学1~2年生を対象に自然体験学習を行う。別に中学生を対象に月に1回の		イ:
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
市内小学6年生及び中学1~2年生		⇒	ア 市内小学6年生及び中学1~2年生 単位 人
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
地域のジュニアリーダーの育成		⇒	ア 参加人数 単位 人
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)		⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
青少年の健全育成		⇒	ア 「家庭や地域ぐるみの青少年教育について」満足度調査 単位 %

(2) 事業費・指標の推移

年間トータルコスト	事業費	財源内訳	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終	年度
				(決算・実績)	(決算・実績)	(決算見込・実績)	(予算・目標)	(計画・目標)	(計画・目標)	(トータルコスト・目標)	
		国庫支出金	千円								
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		一般財源	千円	592	610	462	693	693	693		
		事業費計(A)	千円	592	610	462	693	693	693		0
	人件費	正規職員従事人数	人	8	8	8	8	8	8		
		延べ業務時間	時間	300	300	300	300	300	300		
		人件費計(B)	千円	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365	1,365		0
		(A)+(B)	千円	1,957	1,975	1,827	2,058	2,058	2,058		0
	活動指標	ア	回	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
		イ:									
	対象指標	ア	人	170.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0		
		イ:									
	成果指標	ア	人	170.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0		
		イ:									
	上位成果指標	ア	%	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0		
		イ:									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併前から学区を越えた仲間と団体活動の楽しさや集団活動を通して、自立・共同・奉仕を体験的に学習し、普通学校や家庭では期待しにくい経験を体験し、地域の子どものリーダーとして活躍できる子どもを育てる。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	当初、白根から始まった事業が、現在は全市に拡大して実施している。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	地域の子どものリーダーとして活躍できる子どもを育てるため期待されている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容!】 <input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	合併前は白根地区で実施していたものを、合併後は全地区を対象に実施している。平成25年度から宿泊体験の回数を2回から1回に変更、それとは別に、中学生を対象とした月に1回の研修を実施している。
③ H 26年度に実施した改革改善の内容	宿泊研修の他に、中学生を対象とした月に1回の研修を実施。

事務事業名	ジュニアリーダー養成事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 学区を越えた仲間と団体活動の楽しさや集団活動を通して、自立・共同・奉仕を体験的に学習し、普段学校や家庭では期待しにくい経験を体験し、地域の子どもリーダーとして活躍できる子どもを育てることに貢献している。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 小学校と中学生が連携を持ち、地域のリーダーとして活躍できる子どもを地域で育てるため。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 宿泊研修については、夏休みの期間に限定され事業が集中し、他の担当職員にも動員を求めなければならないため2回の回数を1回に変更した。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後、工夫や努力をすることで、事務事業の目的に向けて現状よりも成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 目的に沿った成果を向上させるためには、1回の宿泊研修だけでは難しい。H25からははじめた中学生を対象にした月に1回の研修により年間を通して仲間作りができるため、成果の向上に期待できる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
効率性 評価	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 毎年継続している事業なので、中断してしまうと地域のジュニアリーダーの育成が出来なくなる。 <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 青少年育成に必要なジュニアリーダーの育成が出来なくなる。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 現在も必要最小限の経費で実施している。H25年度からは2回実施していた宿泊研修を1回に削減した。その代わりに中学生を対象にした月に1回の研修を取り入れた。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 限られた職員だけでは賄いきれず、他課からの動員協力を得ながら、県立八ヶ岳自然の家のメニューに沿って事業化している。回数を2回から1回に変更したため動員数は抑えられた。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 参加希望者が全員参加しているので公平性は保たれている。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	地域の子ども同士の連携を深めるための事業としては、学校教育とは別にこのような「地域での縦・横のつながり」を育成するような事業も必要である。今年度は新たに中学生を対象にした月に1回の研修も開催してみた。参加者数は若干少なかったが、参加者の仲間作り、ボランティア体験は生かされると思う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) <input type="checkbox"/> 終了	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について	(5) 事務事業優先度評価結果 平成26年度																					
① 夏休みの宿泊研修のみではリーダー育成が達成できないため、H25年度から月1回の研修を導入した。(宿泊研修は2回から1回に削減した) ② 子どもクラブ組織の中でリーダー育成が図られるよう働きかけをしていく。	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
① リーダー育成の指導者の確保(県レクリエーション協会にお願いする) ② 各子どもクラブ指導者の意識付け																						